

『戦争余話より』

食糧難を支えた甘藷

林 寅 喜

(会員 佐伯市中の島町)

昭和十二年から八年間続いた戦争が終わり、ようやく取り戻した平和のおかげで、国民を塗炭の苦しみに陥れたのは外ならぬ物資不足と食糧難であった。取り分け食糧については、戦争中は兵役や徴用に取られた人手不足を補うため、子供まで狩り出して生産に従事させ、一方で供出の要請が厳しく、農家は保有米(自家消費量)すら満足に持てない状況下にあった。しかし、生産者という強みがあったか、どうか自給していたように思う。一方、敗戦で海外から引き揚げて来た人達や非生産者の家庭では、深刻さは日増しに強まった。

我が家では米こそ作ってはいなかったものの、畑は少しばかり耕作していた関係上、野菜や麦と甘藷はどうか自給出来る程度の収穫はあった。

ところで、戦前・戦後を通じ数ある食糧の中で、甘藷ほど人々の食生活を支えて来たものはない。なかでも最も厳しかった戦後の二十年から二十二年にかけて、県南で消費した量は想像を絶するものであったと思う。しかし、その甘藷でさえ、手に入れるのに苦労していた家庭も多かったと聞いた。一説によれば、種芋の芽(苗)欠ぎをした後まで食していたと言われるが、それは正しく家畜の飼料にしかならなかった代物である。

甘藷は加工の利く食糧で、切り干しにして「ツツキ」にしたり、粉に碾いて「カンコロ」や、擦り潰して澱粉を取ったり、煮詰めて「イモ飴」にするなど用途は広がったが、日常は蒸した儘食することが多かった。しかし、これも生甘藷の貯蔵方法に限界があつて一年中食される筈もなく、「ツツキ」や「カンコロ」を代用しなければならぬ時期もあった。ことに戦争中はアルコールの原料として使用するため増産を強要され、自給の確保もままならぬ位出荷させられていた。

去る七月の日曜日、木立に住む人の家を尋ねて、昭和二十四年七月発行の『新しい佐伯市の地図』というの

を借り受け(P57でも紹介)て調べていたら、裏面に『みなみあまべ観光ガイド』という欄があり、南郡二十一ヶ町村の人口や世帯数をはじめ、農林産物の収穫高から水産物の水揚げ高(地図の発行年月から前年の実績と思う)まで記載しており、参考のため関係する部分を抜粋して別表に掲げた。

これを見ると甘藷の収穫高が最も多かったのは下入津村の一五四八・三六トで、一世帯当たりになると一・八六ト(六十キ)入り^{ウネ}で三十一俵にもなる。これに対し、最も少ない青山村は二二〇キ(二・五俵)であるが、最多は名護屋村の二・三九ト(約四十俵)で漁村部に多く、農山村部に行くにつれて米・麦生産にかわり少ないことが分かる。

甘藷は乾きに強いため段々畑でも作り易く、漁村部では広く栽培されていたが、稲作は一部を除き皆無といってもよかった。

さて、その段々畑の実態をもっと詳しく知りたいと思っていたところ、都合よく前述の人から借りた大正五年(一九一六)鉄道院大分建設事務所発行の、『佐伯線建

設工事一覽』(詳しくはP56で紹介)という本の中に、参考となる写真が添えられていたので紹介したい。

写真(1)は日代駅を日見側から撮ったもので、駅前の線路下は道路を挟んで海面に続く船溜まりとなっているが、正面の日代トンネルを背にした山並みは、頂上まで隈無く開墾されており、左側網代越えの山道周辺は、棚田を思わせるような光景である。

写真(2)は上浦町の浪太側から広浦海岸を望んだもので、ここでもトンネル上の小さな岬が、尾根まできれいに開墾されている。

この二枚の写真から、食糧事情が安定した昭和三十年代まで、県南の海岸部はいずれも同じ光景ではなかったかと思う。今では到底見ることの出来ない貴重な写真である。

甘藷が我が国に伝わったのは十七世紀はじめとされるが、佐伯藩でもこれを奨励したのであろう。

海岸部では麦の裏作として植えられ、戦前・戦後を通じて多くの人々を食糧難から救った。近年は飽食の時代で甘藷など見向きもされず、その上昭和四十五年からは

生産調整によって稲作まで減反させられ、段々畑は蜜柑園に転作以外、大方は荒れるにまかせているが、飽食の



写真 (1)

付けは後年必ず来るであろう。その時のことを思えば徒や疎かには出来ないと思うが、これもいらぬ節介なのか。



写真 (2)

南郡町村の甘藷収穫高（昭和23年頃）

町 村 名 (現在)	町 村 名	人 口	世帯数	甘藷収穫高	左 同 一世帯当り	摘 要
上 浦 町	東上浦村	6,499	1,269	トニ 一	トン	記載なし
鶴 見 町	西中浦村	4,133	753	1,233.72	1.64	
	中 浦 村	1,825	356			〳
	東中浦村	1,825	356	586.67	1.65	
米水津村	米水津村	4,752	956	1,517.79	1.59	
蒲 江 町	上入津村	3,624	660	1,316.25	1.99	
	下入津村	4,311	831	1,548.36	1.86	
	蒲 江 町	5,374	1,041	—		〳
	名護屋村	2,307	525	1,255.78	2.39	
佐 伯 市	木 立 村	2,805	518	1,031.25	1.99	
	下堅田村	3,364	675	—		〳
	青 山 村	1,944	406	84.75	0.21	
弥 生 町	明 治 村	3,729	708	851.13	1.20	
	上 野 村	2,398	475	—		〳
	切 畑 村	2,958	573	408.66	0.71	
本 匠 村	中 野 村	2,428	483	—		〳
	因 尾 村	—	—	495.38	—	人口・世帯数未載につき 一世帯当り収穫高不明
直 川 村	直 見 村	2,596	514	345.86	0.67	
	川原木村	2,766	533	330.14	0.62	
宇 目 町	重 岡 村	5,299	1,092	—		記載なし
	小野市村	4,439	946	—		〳